

大樹に国内唯一「気球実験場」

広さ、気象が好環境

岩手の観測所閉鎖で移転

宇宙航空研



大樹町の航空公園から2004年11月22日、上昇する無人大型飛行船。同公園には来年4月、気球実験場が移転して来る(宇宙航空研究開発機構・情報通信研究機構提供)

科学観測気球の国内唯一の実験場、三陸大気球観測所(岩手県大船渡市)が来年三月で閉鎖され、大樹町の航空公園に移転する。宇宙航空研究開発機構が二十九日までを決めた。同観測所では二〇〇三年五月、気球の世界最高高度の五十三キロを達成しており、今年五月ごろに記録更新に挑戦した後、三十七年間の歴史に幕を下ろす。

日本独自の技術で極薄の樹脂フィルムを張り合わせた大型気球は、ロケットに比べてコストが大増えれば、大気の微量成分

【大樹】三陸大気球観測所移転の一報を受け、大樹町では宇宙のまち大樹のイメージアップにつながるなど関係者に喜びが広がった。伏見悦夫町長は「数年間取り組んできた成果、夢が一つ実現し感激

世界最先端の「夢実現!」子供に街に活気

分々の測定を通じ、地球温暖化の解明や予測を目指す研究が進むと期待される。気球は宇宙線の観測や自由落下状態を利用した無重力実験にも利用されている。移転するのは、気球が大形化し、ヘリウムガスを詰め、揚げる前に、細長く伸ばして置くスペースが足りなくなってきた。また、気球は陸から海に風が吹く早朝に揚げ、海上に落下させて船で回収するが、同観測所の近くに民家が増え、観測機器の落下防止対策が難しくなっていた。航空公園は広い上、飛行船用に建設した大格納庫もあり、揚げる直前の突風を避けられる。宇宙機構の山上隆正教授は「職人芸でなくても気球を揚げられる方法を考えてきたが、夢がかなう。気球には絵を描くこともできるので、子供たちの教育にも活用してほしい」と話している。

町総務企画課によると、移転に向け今年度は施設整備の工事などが行われ本格的な実験は08年度から。実験は年2回が4、5週間は滞在する。客は多いがさらに宿泊客が増える可能性が高いと期待している。障害物のない広大な敷地と良好な気象状況を背景に、町が航空宇宙基地構想に取り組み始めたのは1985年。95年に多目的航空公園を開設。98年には延長1.5キロの滑走路を舗装化、昨年度は14件の実験が行われた。(北雅貴)

(北雅貴)